

「少子化時代のサステナブルな学術環境・エコシステムに関する分科会」

# 論文の評価と公開に関する問題点

東京大学 大学院医学系研究科・医学部

水島昇

# 現在おこっていること

職や研究費を得たい



よりよいジャーナルに論文を掲載したい



レフェリーが要求する実験に時間と費用を使う



真に必要な研究のための時間、研究費、人材が不足



研究者の消耗

# 現在おこっていること

職や研究費を得たい



よりよいジャーナルに論文を掲載したい



レフェリーが要求する実験に時間と費用を使う



真に必要な研究のための時間、研究費、人材が不足



研究者の消耗

# 現在の査読システムの問題点

- 査読者が研究に介入しすぎている
  - 査読者の役割の明確化(正しさと重要性の評価)
    - 研究指導者との混同？
    - 建設的コメントの意味とは？
  - Major Revisionは必要か？
- 研究成果公開の遅延(少数の査読者による阻止)
  - プレプリントサーバーの活用
  - 著者によるコントロール(eLifeのケース)
- 少数の査読者による論文の格付け
  - Public Reviewの導入(査読者不足、査読者の質や利害関係が不明)
  - 読者による評価(雑誌名ではなく内容を、今度は著者名による格付け？)
  - 結局はインパクトファクターの問題か？

# eLife's New Model: Changing the way you share your research

From next year, eLife is eliminating accept/reject decisions after peer review, instead focusing on public reviews and assessments of preprints.

36,385 views · Oct 20, 2022 



- 論文が投稿される
- 査読に回すかどうかを2-3名のエディターが議論して決定 (査読に回す場合は基本的に掲載が決定)
- 査読に回す場合はプレプリントサーバーでの公開が必須
- 査読後にeLifeとしての**評価(データの強さ、重要性)**と査読者の**Public向けコメントを公開(読者が評価)**
- その他の詳細な査読コメント(改善策を含む)は著者にもどす (非公開)
- **どのコメントに対応するかは著者が決める**
- 改訂版を「Version of Record」として公開(PubMedリンク等)

# 評価と公開の順番をいれかえる

これまでの方法

これからの方法  
(publish, then review)

査読者による**評価**



**公開**

(その後は掲載誌名  
ばかりが注目される)

**公開**(プレプリント)



査読者とコミュニ  
ティーによる**評価**

## SCHOLARLY PUBLISHING

# Can peer reviewing preprints catch on?

As unreviewed studies proliferate online, researchers are eyeing ways to boost critiques

By Jeffrey Brainard

Science 378:1264 (2022)

- 査読者は、論文が特定のジャーナルに適しているかどうかを気にすることなく、科学の質だけに集中することができる。
- プレプリントレビューは、最終的に出版する可能性のある学術誌にとって貴重な情報にもなる。
- ライフサイエンスのプレプリントの全体数は2014年から100倍増えて、年間15万件になっている。
- PubMedの全論文に占めるプレプリントの割合は、2015年の0.2%から現在は7%に達する。
- bioRxivに投稿された約18万件のプレプリントのうち、**研究者がコメントを投稿したのはわずか5%**。
- プレプリントのレビューに消極的な人がいるのは、ジャーナルのレビューとは異なり、昇進などのインセンティブになりにくいから。
- PREreviewというWbsiteが著者と査読者の掲示板のような役割を果たしている。
- プレプリントの査読者が適切かどうか、COIがないかどうかは不透明。
- eLifeは、これまでのaccept/rejectの判定を放棄し、代わりに査読サービスの提供にフォーカスすることになる。

# 現状の仕組みで無駄な改訂をなくすために

	エディター	査読者	著者
不完全な状態で論文を投稿しない			○
投稿後に論文を良くしようと思わない	○	○	○
改訂のための実験を行う前に方針の確認を行えると理想的	○	○	○



# 投稿論文と学位論文の関係

	一般の投稿論文	学位取得要件としての論文
発表のタイミング	研究が完成(または一区切り)したところで発表したい	大学院の期間内に発表したい
投稿雑誌	できるだけ良い雑誌に投稿したい	雑誌の質より時間を優先したい場合が多々
帰属	共著者全員のもの	大学院生個人のもの
衝突	発表のタイミングや掲載誌が筆頭著者である大学院生の個人的な事情によって左右されるのは望ましくない	学位取得のタイミングが共著者の(必ずしも教育的ではない)事情によって左右されるのは望ましくない

- 多くの論文の研究の発表タイミングや投稿先雑誌が、学位取得目的の影響を受けている。
- 日本以外の多くの国でも。
- 投稿論文がなくても学位が取得できる博士課程もある。
- 論文査読者が実質的な学位審査委員になってしまっていないか？